

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月25日現在

機関番号：32631

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530850

研究課題名（和文） スウェーデンにおける地域を基盤とする生涯学習振興の構造と効果に関する研究

研究課題名（英文） A Study on the Structure and Effect of Community Based Lifelong Learning Promotion in Sweden

研究代表者

澤野 由紀子（YUKIKO SAWANO）

聖心女子大学・文学部・教授

研究者番号：40280515

研究成果の概要（和文）：本研究では、スウェーデンにおける1990年代以降の生涯学習政策の分析と、地域のニーズに応じ企業や大学との連携による多様な学びを提供する新しいタイプの生涯学習施設として各地に設置された「学習センター」の事例調査を行い、地方分権化の進展によって公的成人教育の振興においても柔軟な運用が可能となり、学習者の就労支援に重点を置いた個別支援体制が整備された一方で、地域間格差が生じていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In this research, an analysis was made on Swedish lifelong learning policy after 1990, together with several cases studies on “Learning Centres”, which was established in the municipalities as a new type of lifelong learning facility to provide with various learning in collaboration with local business and higher education institutions in order to respond to the needs of each local community and the people. In Sweden with the progress of decentralization, it has become possible to deregulate the mechanism of promotion of publicly supported adult education in municipalities. It enabled provision of individual learners with support for their learning to get better job. On the other hand, it increased the gap in the promotion of adult education in different municipalities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：生涯学習

1. 研究開始当初の背景

スウェーデンの生涯学習は、Andy Greenらにより社会的結束性と競争力の双方を達成していることが既存の統計数値等の分析にもとづき明らかにされ、欧州地域全体を生涯学習社会とすることによって国際的競争

力の強化を図るEUのモデルとして注目されている。日本国内では、スウェーデンの民衆成人教育の歴史と現状（太田美幸）およびリカレント教育の制度と政策（伊藤正純）に関する研究の蓄積がある。近年では、経済学者の神野直彦がスウェーデンの生涯学習を

国の経済発展を支える基盤として評価している。だが、これらの研究はいずれも全国レベルの生涯学習政策とその実践の分析に留まっており、地域内の生涯学習振興策に着目したケーススタディは行われていなかった。そこで、高等教育や職業教育から地域のなかの民衆教育まで、生涯学習活動が全般に盛んで、それらを中核として知的クラスターが形成され経済の発展につながっている地域に着目し、地域における多様な学びの機会が地域の社会・経済のイノベーションとサステナビリティにどのように貢献しているかを明らかにする研究の必要性を感じ、本研究の着想に至った。

2. 研究の目的

本研究は、地方分権化と EU による欧州統一化 (Europeanization) が同時に進む欧州地域に着目し、すべての地域住民に、人生のあらゆる段階で、学校教育、家庭、地域、職場など生活のなかに広がる多様な学びの機会を保障する「学習社会 (learning society)」と、それにもとづき経済活動につながる知識を創造する「学習経済 (learning economy)」を地域社会で実現することによって、多様な学びが学習者個人および地域の社会・経済にもたらす様々な効果を質的に明らかにすることを主な目的とした。その際、19 世紀以来の民衆教育の伝統と、20 世紀後半に構築した社会人のリカレント教育制度を含む公的生涯学習の支援制度を基盤に、地域産業のイノベーションに成功しているスウェーデンの都市を事例として取り上げ、地域における生涯学習体系と生涯学習支援の構造についてもその詳細を明らかにしようとした。

3. 研究の方法

(1) 1990 年以降のスウェーデンにおける国の生涯学習推進策の特色と学習者の状況ならびに「学習センター」設置に至った背景について、スウェーデン政府の政策文書や統計、研究論文等を収集し分析した。

(2) 2010 年 3 月、2011 年 2 月および 9 月にネッショー、オーレブロー、バーベリおよびセーデルハムンの 4 つの自治体において行った学習センターの現地訪問調査ならびに関係者へのインタビューにもとづき、「学習センター」の実践の実態を調査した。いずれも 90 年代からのグローバル化、欧州統合化により変容している地域のニーズに対応し、大学や企業等との連携のもとに地域産業のイノベーションと雇用促進に貢献している事例である。事例の分析にあたっては、スウェーデンの教育科学省が 2004 年に定めた「学習センター」のガイドラインと質保証の基準を参考に、以下の学習センターの機能を観点とした。

- ①組織と財政：ビジョンと戦略、ロケーション、経済状況
- ②学習者への支援：教育・事務、テクノロジー、その他の支援
- ③他機関との協力：パートナー、ネットワーク

4. 研究成果

(1) スウェーデンにおける生涯学習の展開

スウェーデンの生涯学習政策は、ベルリンの壁崩壊とソ連邦の解体に伴いヨーロッパの国際情勢と経済状況が大きく変化した 1990 年代に見直しが行われ、政策の重点が従来の成人のリカレント教育振興から、生涯学習の基礎を育むための幼児教育と初等中等教育、ならびに完全雇用に向けた職業教育に置かれるようになった。

1997 年から 2002 年には、成人を対象とする特別事業として「クンスカプスリフテット (知識向上)」事業が導入された。これは、後期中等教育未修了の成人 (主として失業者) のために、基礎自治体の成人教育機関である KOMVUX をはじめとする既存の成人教育機関や民間の職業訓練機関、フォークハイスクール、学習サークル等に毎年フルタイム換算で 10 万人分の定員を確保 (2000 年には 14 万人に拡大) し、一人あたり年間約 32,000 クローナ (約 48 万円) の国の補助金を実施機関に対し交付するというものであった。後期中等教育未修了の失業者が後期中等教育プログラムを履修しようとする場合は、学習者に対する特別助成金も授与し、成人教育や職業訓練に従来はなかなか参加しようとしなかった層の参加を促した。政府はまた、インターネット上に「知識向上」のサイトを設けて、学習者、教員、雇用者など成人教育関係者の情報交換の場を提供したほか、毎年 4 月に各市町村で、新聞、テレビ、ラジオ、街頭やショッピングセンターでのキャンペーンを通じて、市民に生涯学習の必要性を訴え、地域の多様な学習機会に関する広報を行う「知識週間」を実施することを呼びかけた。この事業には 5 年間で約 55 万人が参加した。これは労働力人口の 15% に相当し、スウェーデンの失業率の減少に貢献したと言われている。

2001 年になると、スウェーデンの経済は好況に向かい、公財政も黒字に転換した。このため、スウェーデン政府は 2000 年末に 2004 年までに 20~64 歳人口の就労率を 80% にするという目標を定めた。成人教育政策に関しては、「政府案 2000/01:72」により、個人に照準を合わせて施策を計画するという新しい方向性が定められた。同政府案は、従来のスウェーデンの成人教育が社会民主主義のもとで個人を共通の背景と共通のニーズを有する集団の一員としかみなさず、成人教育も事前にパッケージ化されたものとなっていたことを批判している。そこで、今後は国が支援する成人のための教育・訓練においては、個人の希望、ニーズと要請に対応していくとの方針が打ち出された。公的資金を民間の教育・訓練機関に配分することにより、成人教育機関の競争を促すことも目標とされた。人的資本の創出と維持のための学習に投資することは個人の自己責任とされた。その一方で、アウトリーチ活動、学習相談、財政支援などは生涯学習の基盤整備として国の予算で行うこと、民衆成人教育は幅広い教養を身につける上で生涯学習においては重要な役割を果たすことから、商業ベースとなることは避けなければならないことなども強調している。

こうした方針を支援していく行政機関として、2002 年 1 月に、国立遠隔教育研究所とスウェーデン遠隔教育庁を廃止統合して国立フレキシブル学習センター (CFL) が設立

された。同センターは、市町村と成人教育制度、民衆成人教育と職業生活における柔軟な学習の開発と活用の促進を目的とした。2008年9月に廃止されるまで e-Learning など遠隔教育の新たな方法を開発し、あらゆる種類の成人向け教育に対する支援と助言を行うとともに、成人教育指導者、学習サークルのリーダー研修なども実施するほか、後期中等教育の遠隔学習コースも提供した。

だが、2000年代の知識基盤型経済への移行に伴い、ニーズが高まったのは、後期中等教育レベルではなく高等教育レベルの職業教育であった。スウェーデンの大学や大学院は、一つの欧州高等教育圏を目指すボローニャ・プロセスへの対応として、教育の質保証を厳密にすることが求められるようになっていたため、高等教育レベルの職業教育を個人のニーズに応じてフレックスに提供する場として地域の学習センターが活用されるようになっていく。そして、1970年代から世界の注目を集めたスウェーデンの大学への社会人のリカレント教育のための特別入学制度は、経済的競争力を高めるために若年層の大学進学率と高等教育の質を向上させることを目的として、2008年度から廃止された。

リカレント教育に替わる職業人の再教育の場として重視されるようになったのが、2002年から制度化された「専門的職業教育 (Kvalificerad yrkesutbildning: 略称 KY)」コースと、2009年度から制度化された「高等職業カレッジ (Yrkeshögskolan: 略称 YH)」および YH 教育コースである。いずれも大学や地域の学習センター、学習協会等の成人教育施設において、企業との連携により見習い訓練を受けながら高等教育レベルの専門的職業教育を受けることができる制度である。

KY は「知識向上」事業と並行して 1996～2001年に実施されたパイロット事業の成果を踏まえて、2002年1月から新しいタイプの中等後職業教育として制度化されることとなった。2002年10月には専門的職業教育の企画調整と事業評価のためにスウェーデン上級職業教育庁も設置された。KY は、製造業、保健・介護、情報通信技術など、技能労働者が不足している分野の人材養成を目的とし、企業と教育機関 (大学、高等学校、市町村成人教育機関、民間教育機関等) の緊密な連携のもとに先進的理論の知識の学習とその応用力を習得させることを目的とする。KY への入学要件は、高等教育機関と同様に、3年制後期中等教育修了もしくはそれと同等の資格を有することとされる。教育期間は 1～3年まで様々である。40週以上のコース修了者には KY 資格が授与される。教育期間のうち 3分の1は職場での研修にあてられる。伝統的な見習い訓練とは対照的に、この「仕事における学び (lärande i arbete; 略称 LIA)」と呼ばれる職場での研修期間は、教育機関で学習した先進的理論を職場で応用する実践的学習と、人間関係能力や問題解決能力の訓練の機会として位置づけられている。LIA 期間中の経費は労働市場 (企業、雇用者団体等) が負担することとなっている。

KY のコースとしての認可を求める際には、カリキュラムの特色、構造、教育スタッフに求められるスキル、職場での研修において焦

点をあてるべき内容と組織の仕方、入学資格要件、入学時に必要とされる知識などを明確にするほか、コースのデザインに雇用主を積極的に参加させることが重要となる。スウェーデンには、これまでデュアル・システムによる職業訓練は行われていなかった上、高度な技能の習得を目指していることから、KY は画期的な職業教育の制度とみなされている。現在では、修了者の約 90% がコース修了 1ヶ月以内に就職するなど、雇用対策としても効果が認められている。2009年に高等職業カレッジ (YH) が制度化されたことにより、2013年までにすべての KY コースが YH に転換される。これにより、YH プログラムが拡充されることが期待されている。

(2) 基礎自治体の「学習センター」

スウェーデンの「学習センター」は、ソ連邦の崩壊とグローバル化の進展によりスウェーデンの産業構造が大きく変化した 1990年代初頭から 2000年代半ばに、成人のための多様な学習機会を統合する場としてコミュニティに設けられた新しいタイプの生涯学習施設である。90年代後半からは、前述の「知識向上」事業とも連動し、個人の多様な学習ニーズに対応する新しいタイプの生涯学習センターとして開設が進められた。名称は、「学習センター」(lärcentra) のほか、「知識向上リソース」、「スタディーセンター」、「教育センター」、「カレッジセンター」、「成人教育機関」、「シティーアカデミー」、「キャンパス」、「フレキシブル学習センター」など様々である。「学習センター」の開設に伴い、従来型の公的成人教育を実施していた KOMVUX (コミュニティ立成人教育学校、後期中等教育レベル) および GRUNDTVUX (基礎成人教育学校) を廃止して同様のプログラムを学習センターで実施したり、民間委託とするコミュニティが増えている。

2003年には全国のコミュニティの 86% に計 248 の学習センターが設置されていた。その多くは、1997年～2001年までの 5年間、失業の危機に瀕している後期中等教育未修了の成人を対象として実施された「知識向上 (クンスカップリフティッド)」事業実施期間とその前後に設置されたものである。

その後、成人教育を大学や民間教育機関等にすべて任せて公的成人教育を提供しなくなったコミュニティが現れたことなどにより、廃止となった学習センターもある。この結果、2010年11月現在の全国の学習センター数は約 130 に減少している。

本研究では、ネッショー、セーデルハムン、オーレブローおよびバーベリの 4地点において学習センターの事例調査を行った。以下、設立年の古い順に事例調査の結果を述べる。

①ネッショー学習センター

スウェーデン南部に位置するヨンショーピン県ネッショー・コミュニティは、人口 3万人の自治体である。ネッショーは鉄道・物流のハブであるほか、木工業・家具製品の製作が盛んである。150キロ圏内にスウェーデンの木工・家具企業の 75% がある。ネッショー学習センターは、公立成人教育・共生・労働総合センターとして 1995年に設立された。

＜組織・財政＞ 「教育、ガイダンスと共生」が、ネッショール学習センターの目標である。設置場所は町の中心部からは離れた郊外にあり、大規模な木工業のワークショップを備えたネッショール木材センターが同じ建物内に併設されており、近隣の高校とともに学習センターも実習に利用することができる。

学習センターの財政は、コミュニンの予算のほか、企業からの寄付により賄われている。

＜学習者支援＞ 学習障害者のための成人教育、移民のためのスウェーデン語教育、成人基礎教育（義務教育レベル）・成人後期中等教育（電気技師養成、木工、テクノロジー、建築分野の職業教育コース）、テクニク・カレッジ（隣接する他の職業教育機関とネットワークを構築しながら見習い訓練はせずに質の高い職業教育を行うコース）、物流、販売・マーケティング、家具製作、家具・インテリアデザインコーディネーター、精神医療、生産マネージャー等の分野における高等職業教育コース（YH）、大学コース・遠隔教育、早朝に職業人を対象に行う公開講座、キャリア・ガイダンスのほか、企業の要請による有料講座を実施している。年3学期制をとり、のべ約1500人が利用している。専任教員は2人、職員16人、非常勤職員20-30人である。

＜他機関との協力＞ ネッショール学習センターは、地域の企業、商工団体との緊密な連携のもとにプログラムを実施していることから、修了生の就職先の確保が容易となり、就職率は80-90%に上る。企業等と連携することにより、新しいコース開発も容易になっている。高等職業教育コースの幹部として企業の代表を招聘することもある。

また、ヨンショーピン大学工学部、ヨンショーピン大学国際商業学部ならびにブレキング職業カレッジ（YH）と連携し、各機関からのウェブカメラを用いた講義を受信している。また公開講座はリンネ大学と連携して行われている。学習センターからも工科大学の3つの教育プログラムに協力している。また、高等職業教育コースの運営に大学からの協力を求めることもある。

②セーデルハムン・フレキシブル学習センター

スウェーデン中央部の東海岸に位置するイエーブレボリー県セーデルハムンコミュニンは人口26000人。ソ連邦解体・消滅による影響から1990年代前半にパルプ工場、空軍基地、病院などが相次いで閉鎖した。2000年にエリクソンの工場も閉鎖し、多数の市民が失業した。他地域への移転者も続出し、人口は7000人近く減少した。現在は観光業、代替エネルギー産業、介護・看護等が主な産業となっている。また、イエーブレボリー県の住民の学歴（特に男性）は全国平均よりも低い（3年制高等教育修了者全国平均23%に対して17%）ことから、住民の知識向上を目指して1999年にセーデルハムン・フレキシブル学習センターが創設された。

＜組織・財政＞ セーデルハムン・フレキシブル学習センターは、「成長」と「民主主義」のための生涯学習を理念とし、個人、企業、団体にフレキシブルな学びと出会いの場を提供することを目標としている。

町の中心部付近に独立した建物を新築した。ガラス張りの2階建ての建物の中には、教室や博士課程の学生のための研究室のほかに、地域の人たちもイベントに利用できる広いホールや食堂、会議室、図書室がある。いくつかの教室にはビデオ・カンファレンス装置が備わっている。

センターの予算総額500万クローナのうち、350万クローナが国からの交付金、1150万クローナがコミュニンの予算、3500万クローナがEUの欧州社会基金等からの助成金や企業等からの講座委託費等の外部資金によって賄われている。

＜学習者支援＞ セーデルハムン・フレキシブル学習センターでは、基礎成人教育、食品・栄養、介護、風力発電等の分野における高等職業教育（YH）、健康教育、移民のためのスウェーデン語、知的障害者のための成人教育、高等教育、見習い訓練ならびに職業ガイダンスを提供している。また、読み書きが困難なディスレクシア学習者への個別支援、学習者へのIT支援、図書館の整備、企業等からの委託研修の実施により学習者の多様なニーズに対応しているほか、学習者だけでなく広く市内の企業や市民に会議室、食堂等の施設を利用可能にしている。

コース在籍者は年間計約1000人、企業からの委託教育参加者は約4500人、図書館等の施設利用を含む1日の平均利用者数は約800人である。教職員は55-69人で、うち教員は20人である。

＜他機関との連携＞ 各種コースやプログラムの実施の際に、コミュニン、他の成人教育機関ならびに企業と連携が行われている。

コミュニンとは、コミュニン職員のためのプロジェクト英語の学習、児童生徒の起業家スキルを伸ばすための教員研修において連携している。

学習者を応募する際には、他のコミュニンの民間成人教育機関、フォークハイスクールならびにスタディサークルに協力を求めることにより、一定数の学習者を確保している。

企業との連携は、教育・研修のほかにも研究開発面で連携を行っている。

センターと特定の大学とのつながりはないが、学習者が遠隔地教育により高等教育を受けることを希望する場合には積極的に調整している。

＜研究・開発＞ セーデルハムン・フレキシブル学習センターの特色として、教職員がコミュニン、地方、国、EU、UNESCO等国際レベルの研究開発事業を実施していることがあげられる。大学院のある高等教育機関と連携してPh.D.学生の受入れも行っており、子育て中の女性などセーデルハムンを離れずに学位取得のための研究を行うことを希望する人にセンター内の研究室を提供し研究の支援をしているほか、教職員が取り組んでいる研究開発事業にも参加してもらっている。また、スウェーデン国際開発庁（SIDA）等と連携し、南アフリカにおいて地域の学習センターを普及させるための国際協力・交流活動も実施している。

③オーレブロー・シティーアカデミン

首都ストックホルムの西約200キロの位置

にあるオーレブロー県オーレブロー・コミュニティは、人口13万5000人のスウェーデン第7の都市である。人口の16%は150カ国からの移民が占める。失業者、障害者も多い。交通の要所にある古都で、物流、ハイテク産業、自動車・航空機の部品製造、レストラン・外食産業等が基幹産業となっている。オーレブロー・シティーアカデミンは、2000年に設立されたオープン教育センターを前身とし、2003年に学習センターとして改組された。

＜組織・財政＞ オーレブロー・シティーアカデミンは「学びと発展の場、市民、教師と雇用主の出会いの場、職業生活と学びの間の仲介」を理念とする。市中心部にある市立中央図書館の2階に置かれ、学習室、コンピュータ室、ビデオ・カンファレンス装置付の会議室等がある。オーレブロー・シティーアカデミンは月曜日から金曜日の午前8時から午後4時まで開設されているが、学習室で教員による指導を受けることができるのは、午前10時から午後4時までである。ただし自習の場合は午前7時から午後10時まで利用可能となっている。

シティーアカデミンの財政は、コミュニティの予算とEUの欧州社会基金等からの助成金により賄われている。

＜学習者支援＞ 移民系の利用者が多いシティーアカデミンでは、学習者に自信をつける個人学習の指導と助言や学習、キャリアについてのガイダンスならびにコンピテンスの認定(validation)に重点を置いており、市内の別施設で行われている移民のためのスウェーデン語講座、他の成人教育機関、大学等における教育に参加するまでの橋渡し役を担っている。また、商業・物流等の分野の高等職業教育や大学レベルのコースを提供している。

シティーアカデミンの年間のべ利用者数(受付人数)は、6～7万人に上る。専任の教職員は14人おり、うち4人が教員、8人がガイダンス・カウンセラーである。自習者への個別指導を行う非常勤教員も5人おり、シティーアカデミンの修了者も積極的に雇用している。

＜他機関とのネットワーク＞ 市職員の能力認定はコミュニティとの連携のもとに実施している。また、雇用主・雇用相談所との連携のもとに、市民の就労支援を行っている。また、フォークハイスクールやスタディー・サークルなどの民衆成人教育機関が提供している学習機会の橋渡しを行っている。同じ市内にあるオーレブロー大学との連携はあまり盛んではなく、設立当初の1年間のみ、学習者のガイダンスのあり方について指導を受けていた。特別支援教育機関とは、ディスレクシアの学習支援に関して連携をしているほか、病院・心理士との連携も行っている。コンピテンス認定(validation)の手法開発に関しては、ノルウェーをはじめとする北欧諸国やEUとも共同研究を行っている。

④ キャンパス・バーベリ

スウェーデン南部の西海岸に面するハラント県のバーベリ市は、人口約5万5000人。スウェーデンの電力の20%を供給するバッテリーフォール社のリングハル原子力発電所

がある。夏は海水浴、冬は冷水浴を楽しむことのできる北海のリゾート地でもあり、原子力発電のほかに、バイオエネルギー、風力発電、材木、製紙、物流、IT産業、観光業等を基幹産業とする。家賃が高いため、住民のなかに移民は少ない。バーベリは2010年にスウェーデンのベスト・コミュニティとして表彰されたが、その理由の一つが、2003年に同市の学習センターとして開設されたキャンパス・バーベリの存在であった。

＜組織・財政＞ キャンパス・バーベリは「新しいアイデア、新しいコンピテンスの出会いの場。新しい未来へ向けた知識開発のハブ。」を理念とする。バーベリ駅から徒歩3分の北海に面した保養地に2008年に校舎を新築した。財政の50%は市の成人教育予算、50%は他の関係機関からの委託費や寄付金による。高等教育レベルの授業は国の補助金により無料で行われている。

バーベリ市では、キャンパス・バーベリを市議会の直轄とし、他施設で行われている成人教育も含めて市内の成人教育を統括するセンターという位置づけにしている。そのため所長には大きな権限を与えている。現所長であるウルリック・ビョルク氏の前職は経済学を専攻するボロース大学の教員で教育学科長を務めていたこともある。大学教員の職を辞して学習センターの長となったことに驚く人もいるが、ビョルク氏はキャンパス・バーベリでは革新的な取り組みができるため、この仕事にやりがいを感じているとのことであった。

＜学習者支援＞ キャンパス・バーベリでは、学習者のニーズに即応するために、常にプログラムの見直しを行っている。2010-11年度は、次のようなコースとプログラムが実施されていた。

高等教育(学士課程)コースでは、販売マネジメント、エネルギー技術、イベントマネジメント、環境技術、教員養成(就学前教員・初等余暇教員)、健康促進マネジメントおよび看護の専門課程がある。高等職業教育コースでは、販売マネージャー、ネットシステム開発者、建築業プロジェクトマネージャー、製品開発・デザイン・マーケティングの各部門の資格取得ができるプログラムを提供している。また、健康・フィットネスマネジメント分野の高等教育(修士課程)コースもあった。

これらのほかに、連携大学が主として週1回夜間に実施する独立コース、バーベリの夏を楽しみながら興味・関心に応じた補足的学習を行うことのできる夏期コース、一般市民にも公開される早朝のブレックファスト・アカデミーや公開講座が実施されている。また、大学ともネットワークがあるキャンパス・バーベリの図書館は、誰もが学習に利用できる場となっている。

就労に直結した資格取得課程が充実しているキャンパス・バーベリには、スウェーデン全土から学生が集まり、毎年約4000人が利用している。教職員は約30人。大学との連携コースでは、大学教員が派遣される。

＜他機関との連携＞ キャンパス・バーベリは市内の他の成人教育機関と連携しているほか、ボロース大学、ハルムスタッド大学、

ショーヴデ大学、ヨーテボリ大学、マルメ大学、シャルマー大学およびヨンショーピン大学と連携して、高等教育レベルのコースを提供している。また、EUや企業等と連携した研究開発事業を行っている。

＜研究開発＞ キャンパス・バーベリでは、2008年12月、地域起こしのための雇用開発に取り組む研究所として同じ建物内に「アレクサンダーソン・インスティテュート」を設置した。以来6～7人の専任職員を常駐させ、ボロース大学と連携したイベントマネージャーの養成、観光客をターゲットとしたスパ・ビジネスの研究開発ならびに起業を目指す学生への支援等を行っている。

(3) 考察

以上の研究結果の分析から、スウェーデンでは1990年代初頭からの国際情勢の変化とグローバル化に伴う産業構造の変化に対応するため、各コミュニティが地域産業の振興と雇用創出のための職業訓練を重視した生涯学習を推進することを目的として、従来型の公的成人教育機関や民衆成人教育機関とは異なる地域の学習センターを設け、成人が居住地や勤務先の近隣で、それぞれのニーズに応じて、大学および企業との連携のもとに職業資格の取得に直結した学びを、一斉授業だけでなく、実習、自己学習やビデオ会議システムによる大学の講義への参加など、多様な学習形態を柔軟に組み合わせることを可能としようとしていることが明らかになった。

いずれの学習センターにおいても、ビデオ会議システムが整備されており、離れた所にある大学の講義に参加するなど、大学と連携した専門的職業教育が行われているほか、移民、学習障害者や知的障害者のための教育コースを設け、社会から疎外されて不利益を被りやすい層に特別な配慮がなされている。また、自らの人生のなかで蓄積された学習の到達点を評価(validation)し、どのレベルの学習に取り組むべきか判断ができない学習者に対するガイダンスが行われている。ただし、コミュニティの規模や社会・経済的状況、他の成人教育機関の普及状況に応じて、学習センターの活動の重点は異なっている。たとえば、セーデルハムンとバーベリの学習センターでは、地域の産業のイノベーションを目標とし、研究開発に取り組むことで、その成果を教育活動にも還元している。また、地域のなかに他の学習機会が充実しているオーレブローでは、学習センターの活動の重点はガイダンスと自己学習の支援に置かれている。

地方分権が進んでいるスウェーデンでは、国から地方への交付金は使途を特定しないブロック予算となっているため、各コミュニティの成人教育予算はまちまちである。学習センターの組織や教育の質に関して、国が定めたガイドラインはあるものの、実際の運用は各自自治体に任されている。こうしたなかで、学習センター同士でそれぞれの実践や国の生涯学習政策等に関する情報交換を行うためのネットワークが形成されている。

これらの実践は、EU諸国からも知識社会における地域の生涯学習振興の成功事例として注目されており、各国で応用可能なノウ

ハウが蓄積されている。事例調査によりその実態を分析した本研究の成果は、日本国内の地域における生涯学習の振興策、とりわけ公民館や生涯学習センターのあり方を再考し、活動のガイドラインを作成する際にインパクトを与える可能性がある。

今後は、スウェーデンが教育協力を行っている途上国における学習センター普及の実態を含め、国境を越えた影響関係についてもさらに研究を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 澤野由紀子、日本における生涯学習国際比較研究—30年の変遷と課題、日本生涯教育学会年報、査読有、第30号、2009、pp. 37-49
- ② 澤野由紀子、諸外国における21世紀の生涯学習と成人教育—その理念と実践の展開、全国社会教育連合会編『社会教育』、査読無、第65(5)巻、2010、pp. 26-32
- ③ 澤野由紀子、EUの生涯学習政策とガイドライン、日本生涯教育学会年報、査読有、第31号、2010、pp. 167-186
- ④ 澤野由紀子、スウェーデンにおける地域を基盤とする生涯学習振興に関する研究—地域のニーズに即応する「学習センター」の実践—、日本生涯教育学会論集・33、査読有、2012年、10p. (2012年10月刊行予定)

[学会発表] (計3件)

- ① 澤野由紀子、スウェーデンにおける生涯学習推進とその効果に関する研究、日本比較教育学会第46回大会、2010年6月27日、神戸大学
- ② 澤野由紀子、スウェーデンにおける地域を基盤とする生涯学習振興に関する研究：学習センターの機能と構造、日本生涯教育学会第31回大会、2010年11月28日、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
- ③ 澤野由紀子、スウェーデンにおける地域を基盤とする生涯学習振興に関する研究—地域のニーズに即応する学習センターの実践—、日本生涯教育学会第32回大会、2011年11月5日、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

6. 研究組織

(1) 研究代表者

澤野 由紀子 (Yukiko Sawano)
聖心女子大学・文学部・教授
研究者番号：40280515